

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども					
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。 2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。 3 健やかな心と体づくりを進める。 4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・子ども一人一人が話を聞く力や自分の思いや考えを伝える力がつよくなるよう日々の保育を進めていく。 ・年度当初に学級目標を明確に設定し、保育計画を立案、実践する中で、保育環境や教師の援助のあり方の見直しや改善を行い、子供が主体的に遊び込める保育実践に取り組む。	・保護者アンケートで「人の話を聞く力や自分の思いをいう力がつよくなった」という項目の評価が80%以上になる。	A	・保護者アンケートで「人の話を聞く力や自分の思いをいう力がつよくなった」という項目の評価が95%であり、教育内容について理解を得ることができた。 ・講師を招聘しての園内研究会などで学んだ環境の構成や援助など、より継続して行うことが課題であった。	・園内研究会や職員会議などで、意見や交換し、子供の育ちや課題、また、保育内容や環境構成、教師の援助などについての共通理解を図り、日々の保育に努めていく。	・園行事を見ていて、発達段階に差があることも多い中、話を聞くこと、姿勢、自分から話そうとする姿勢が十分見られた。今後も職員一同協力し合い、計画を練って保育を実践してほしい。
	直接体験を通して子どもが心も動かす保育の推進	・園の特色でもあるピオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・2学期より、年長児はピオトープ研修会を月1回実施する。 ・自然を取り入れた教育についての評価を90%以上にする。	A	・コロナ禍もあり、6月からピオトープ研修会を行い、地域の講師として月1回来ていただいた。四季折々の自然物、虫について教えていただき、五感を使って自然に親しむ体験ができた。 ・自然を取り入れた教育についての評価が90%であった。	・年長児が教えてもらったことを他学年に知らせていくなど年齢の交流を図り園全体で自然に興味や関心を持って保育の工夫を行っている。 ・今後も四季折々の自然物や虫などに興味や関心を持ち、自分で野草や花を育てる直接体験ができるような計画や環境を用意し、保護者ともその姿を共有しあう。	・改善策について、野菜や花の栽培の年間を計画を立て、実践していく。 ・年度当初に先生や3、4歳児にもピオトープの紹介や説明をする。 ・心を動かす直接体験を通して、感じたことを表現したり伝えられる力につなげられるように。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・日々の遊びの中で、運動遊びに取り組み、園と家庭が連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・保健の話や月1回実施する。 ・保健活動の評価、運動遊びの評価を80%以上にする。 ・毎月1回の保健だより発行、また随時健康カレンダーを配布する。	A	・保健活動は98%、運動遊びは100%の評価を得ることができた。 ・日々の遊びの中で楽しく運動遊びに取り組んでいた。コロナのため、保育の始まりが遅かった。朝服があったりする中で、日々の活動を行うなど、継続することが難しかった。 ・保健の話や年齢、発達段階を踏まえ、月1回実施した。また、保健の話とともに健康カレンダーに取り入れ、園と家庭が連携を図ることで、生活習慣の確立につなげた。	・日々の遊びの中で、運動遊びに取り組み、園と家庭が連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・参観に向けて運動遊びに楽しもうと取り組む、園庭や雲梯や縄跳びなど、できるようになるまで頑張る姿も見られた。コロナ禍で外出が難しい中、保育での運動遊びが貴重だったと思う。
	特別支援教育の推進・充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・日々の保育、通級指導を通してインクルーシブ教育を進めていく。	・個別指導計画を基に保育を進め、記録や話し合いを通して全職員で支援の方向性を共通理解する。 ・日々の保育実践や連絡ノート、通級指導「にじいろひろば」を通して保護者啓発を進めていく。	A	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換(話し合い)を月2回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実施する。 ・特別支援対象児保護者との懇談会を年間2回実施し、個々の育ちや課題を共通理解し、具体的な支援に努めていく。 ・特別支援教育に視点を当てたアンケート項目の評価を80%以上にする。	・月2回支援対象児に焦点を当てた話し合いを深め、全職員で共通理解ができるよう、努める。	・集団の中で、対象児が上手く自分を当てた話し合いを深め、全職員で共通理解ができるよう、努める。 ・先生達の繋がりがよく、子供達の様子を見て、すぐに相談して保育を進める姿をよく見かけた。保護者の方も、先生全員で子供達を理解し、育ててくれている安心感があつたと思う。
教師の教育力の向上	人権教育の推進・充実	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・2学期にDVD研修、紙面研修を通して教職員や保護者が学ぶ機会をもつ。 ・日々の保育の中で、一人一人を十分に認め、自分も他者も大切にできるような保育を行う。 ・人権の花の栽培を通して、生命の大切さに気づき、愛情深く関わる経験ができるよう保育を進める。 ・人権教材「いっしょこころそ(カード)」などを必要に応じて活用し、自尊感情の育成に努める。	B	・人権の啓発項目の評価を70%以上とする。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していることの情報交換を積極的に行う。	・日々の教育活動の中で、一人一人の言葉に耳を傾け、姿を受けとめる保育に取り組んできた。 ・自尊感情の育成については、達成目標を上回る肯定的な評価を得ることができた。 ・各クラスでの保育の取り組みの情報交換をより細やかに行う必要がある。	・年度末の劇遊びで、一人一人ののびのびと自信を持って自分らしい表現ができ、かつまとまってお互いに語りあうことは、先生方が一人一人を理解し、子供同士がお互いを認め合っているからだと感じた。 ・事例研究(年2回)などを計画してはどうか。
	教職員研修の充実・人材の育成	・質の高い教育活動が行えるよう個々の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基とした保育のあり方についての話し合い、園内研究、共同研究を進めたい。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、個々の課題に向かって研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。	B	・幼児理解を基盤とした保育に努めてきた。 ・短期指導計画による情報交換を行い、子供の様子や必要な援助、環境の構成について全職員で共通理解を図るよう努めた。 ・共同研究園の園内研修会に参加し、主体的に遊び込むための保育のあり方について学ぶことができた。	・講師を招聘した園内研究会や、園内の研修を行い、主体的に遊び込むための保育の育成に向けて必要な環境の構成や教師の援助を学び、職員間で共通理解を深めていく。また、研修を通して、職員の資質の向上に努める。	・園内研究会、事例研究については、回数をもっと入れてほしい。 (年間2回、学期に1回等)個々の力量を高めるためにも必要である。
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・新型コロナウイルス感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。 ・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・「安全、安心に生活している」という項目が80%以上になる。 ・流行性疾患についての予防に努め、随時保護者にも直接呼びかけをする。 ・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、必要に応じて安全指導を日々行っていく。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が80%以上になる。	A	・新型コロナウイルス感染症対策は、ガイドラインや市教委からの通達に基づきながら行い、99%の評価を得ることができた。子供が手洗いやうがいや消毒、マスクの着用などを自ら意識していたこと、日々の健康観察や検温など保護者のご協力があったからこそ努めることができたと思える。 ・避難訓練は年1回、防災訓練は年1回実施した。実施後は振り返りを行い、教師間で共通理解を図った。また、日々の子供の姿に応じて安全指導を行った。	・新型コロナウイルス感染症は状況が日々変化している。そのための情報収集し、市教委や連携を密に図りながら、引き続き対策を行い、子供自身が意識して取り組む、安心安全に過ごせるよう努めていく。 ・避難訓練はコロナ禍で実施が難しかったが、自分を守るために意識できるよう、今後も安全指導を取り入れ、保育を工夫していく。	・感染対策について、子供達が意識して対策をしている姿が見られた。
	学校園情報発信の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・保育の内容を保護者や地域に発信しついで機会をつくり、教育に対する理解を深めていく。 ・ドキュメンテーションや幼稚園だより、クラスだよりなどを定期的に発信していく。	B	・保護者評価において、おたよりでは評価結果は100%の指示を得られた。 ・写真やホームページにおいては達成目標には取り組んできたが、HPの評価としては80%の評価であった。	・おたよりや写真の掲示など、細やかに作られていて、子供達の様子がよく伝わってきた。参観など少ない中、保護者の方も様子がわかり、安心したと思う。 ・コロナ禍で、電子化やSNS利用などが加速しているため、ホームページやメールなどで情報を発信してくれることを期待している。	・おたよりや写真の掲示など、細やかに作られていて、子供達の様子がよく伝わってきた。参観など少ない中、保護者の方も様子がわかり、安心したと思う。 ・コロナ禍で、電子化やSNS利用などが加速しているため、ホームページやメールなどで情報を発信してくれることを期待している。
業務改善	子育て支援	・預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。	・「預かり保育を実施し、保護者も子どもも安心して保育時間終了後子育て支援の充実」に努める。 ・「保護者が安心して子育てができる」と言う項目の評価を80%以上とする。 ・預かり保育の必要性に応じた対応ができるようになる。	A	・預かり保育の利用者が増え、保護者のニーズに応えるよう努めてきたことで、子育ての充実につながっている。評価は97%であった。2学期末より欠員であった子育て支援員が配置されたが、利用者が増える中、安全面などの課題に関しては引き続き検討が必要。 ・子育て支援センターとの連携を図り、「みんなのひろば」を実施した。	・預かり保育において、利用者が増えることと、子供の安全確保、保護者対応、事務作業の増加などの課題について共通理解を図り、全職員でかかわる必要がある。	・預かり保育が保護者の心のゆとりにつながっていると感じている。 ・安全に預かり保育ができるよう、利用人数や年齢に合わせた子育て支援員の配置が必要であると思う。
	業務改善	・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識を高める。	・園務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組み。 ・園務分掌上の仕事に各職員が責任をもって取り組む。 ・定時退勤日を園務日程に位置づけ、超過勤務削減についての意識を高める。	B	・園務日程に基づき、計画的に会議や作業に取り組みするよう努めたが、本年度は職員体制が大きく変わったこともあり、保育内容、行事等全園務において、共通理解を図ることが必要であり、時間がかかることが多かった。 ・保育環境設備、作業、事務仕事、出張等仕事量が多く、超過勤務削減には至っていない。業務改善は引き続き課題である。	・園務分掌担当者を中心とし、事前に提案資料を配布するなど効率よく職員会議を進め、共通理解を図るよう努めていく。 ・引き続き定時退勤日の徹底、年休取得を図る。	・今年度は消毒作業などのコロナ対策や園舎の工事に係る作業など仕事量が多かったと思う。また、日々変化しているコロナの状況に対応して日々の保育や行事などを検討するに時間がかかったと思う。 ・業務改善は難しいようである。事前に提案資料の配布は効果的であり、必ず実践するようにする。 ・週1回の定時退勤日が確保できる

学校関係者評価総括
 ・経験年数の少ない教師が多いにもかかわらず意欲をもって子ども達に向けて保育に取り組む姿勢が見受けられた。今後更に個々に細やかに課題を持ち、しっかりと歩んでいくことを願う。
 ・異年齢での交流が盛んになったと感じる。本年度から3年保育が実施されたが、子供同士の繋がりが、先生方のチームワークも良く、子供達もいきいきと遊んでいて幼稚園全体が活発な印象である。コロナ禍のため、集団登降園はできなくなったが、保護者に直接園長先生や担任の先生が声をかけがあり、保護者の安心、信頼につながったと思う。世の中がどのような状況でも子供達は日々成長していくので、これからは「学びをためないこと」を意識し、保護者に寄り添いながら、子供達主体の保育をしてほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・教師の資質向上、子供達一人一人の学びや育ちを保障するため、園内研究会、事例研究を学期に1回実施し、日々の保育の充実を努める。
 ・週1回の定時退勤日の徹底、年休5日取得等、各自が意識して業務改善に努める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った